令和4年度 第3回(確定稿) 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日時:令和4年9月13日(火)18時00分～

■会場:オンライン(Zoom)

1. 報告事項

- (1) 業務報告(令和4年7月・8月)について【資料1、2、3】
- (2) 業務予定(令和4年9月・10月)について【資料4】
- (3) 「夏!体験ボランティア 西東京 2022」について【資料5】

○事務局より、(1)～(3)について資料を用い説明を行った。

【副委員長】 ボランティアコーディネート実績表にある、子どもの外遊びイベントとは何か。

【事務局】 毎月1回、市内の公園で子育て支援団体が行っているイベントである。

【理事】 サロンで特技披露とあるが、これは何か。

【事務局】 個人宅でサロンを開催している方から演芸を披露して欲しいと依頼があった。ギターとフルートの演奏で3名を紹介した。コロナ以前は高齢者施設から敬老会やイベントの際に依頼があった。今はまだ、ボランティアの受け入れが再開していないが、小規模のデイサービスや個人宅で開催されているサロンからは、徐々に依頼が入ってきている。

【副委員長】 どのような人がどのようなことをやるのかを、ボランティアセンターは把握しているのか。

【事務局】 依頼の際、どのようなものを披露して欲しいか希望を出してもらい、ボランティアセンターに特技登録をしている方々に活動紹介をしている。

【副委員長】 「災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会」の新規参加者は何名いたか。

【事務局】 新規は会場とオンラインで9名の申し込みがあった。参加者の中には市内の社会福祉法人の方もいた。

【委員】 今回はスタッフ養成講習会のため、一般的な災害講習会とは違い、人数も集まりにくいと感じる。

【事務局】 災害が起きた時、どうするかということを専門的に学ぶ内容のため、企画の段階から心配はしていたが、必要な情報、知識を得てもらいたいと考え実施している。次年度以降は一般市民の方々が参加しやすい講座を検討していきたい。

【副委員長】 「夏!体験ボランティア」の広報だが、アンケート結果によると、チラシ、ポスターと同じくらいホームページも見てもらえているということか。

【事務局】 ホームページを見たという人が多かった。東京ボランティア・市民活動センターのホームページにも掲載してもらい、市外からの参加者もあった。

【副委員長】 紙媒体も市内では大事だが、ホームページは幅広く見てもらえ影響があると読み取れる。

【事務局】 体験後のアンケートも、昨年まではアンケート用紙を持参またはFAX、写メを送ってもらっていた。今年度はオンラインでのアンケートを作成したところ例年より回答が多かった。

- 【副委員長】参加者の行動が受け入れ施設の要望に応えられなかったと報告にあったが、相手を確認しながら紹介することは難しいと思うが今後の課題になるのではないかな。
- 【事務局】約束を守れないことに対しては、きちんと説明したうえで、できなければ体験させないということもあり得ると思う。
- 【委員】受け入れ側の保育園としては、コロナの状況で密に接することが無いように、園庭では一緒に遊んでもらい、室内では制作や掃除をしてもらった。参加した中学生は皆真面目でよくやってくれた。ユーモアもあり楽しませてもらえた。久しぶりの受け入れだったがとても良かった。参加者の一人が体験中に具合が悪くなり、その後クラスの子どもも体調を崩した。直接的な原因かどうか分からないが、受け入れ側としても気を付けていきたい。
- 【事務局】迷惑をかけてしまい申し訳なかった。今年度、西東京市は他市と比べ受け入れ先も多く、体験参加者も多かった。施設や団体の方々に感謝している。
- 【委員】防災に関する学習活動で防災クッキングを実際に行ったところ、参加した小・中学生がとても興味を持ち、良い経験となったと思う。防災を学ぶ上で入りやすかったのではないかな。

2. 審議事項

- (1) 令和4年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について【資料6】
- 【副委員長】加筆修正があれば9月20日までに連絡し確定とする。

3. 協議事項

- (1) 「夏!体験ボランティア西東京 2023」について
- 【事務局】今年度、体験先として外国人に日本語を教える団体や、点字を学べる団体などを希望する人が多かった。「夏!体験ボランティア」の中で、学びの場を提供していくことも良いのではないかと考える。意見をいただきたい。
- 【副委員長】今回、ごみ拾いなど新しいことを取り入れ参加してもらった。継続することも大事だが、新たな取り組みなど、何か意見はあるか。
- 【理事】田無特別支援学校で7月の土曜日にPTA主催の夏祭りを行った。教員の働き方改革により、学校の協力が以前ほど得られない。保護者の負担が大きく、このままでは夏祭りの存続が危ぶまれる。都立高校の校長が熱心に「夏!体験ボランティア」を生徒に勧めてくれたと聞き、ボランティアで手伝ってもらえると良いと思う。
- 【委員】障がい者が市民祭りなどに参加する際も、車いすの方は公園内の悪路に大変苦勞する。同行ボランティアがいると安心して楽しく過ごせる。同行ボランティアについて体験することもできるのではないかな。一緒に回ることで障がい者がどんな状況で困るのか、あるいは楽しめるのか、生活の一部を知ることができる。
- 【委員】高齢者施設はまだ、対面でのボランティアの受け入れが再開していない。職員が近隣の小学校へ出向き、高齢者について知ってもらえる機会が増えると良い。
- 【副委員長】「夏!体験ボランティア」の学びの場の企画につながるのではないかな。
- 【委員】傾聴活動もコロナ禍で対面が難しい。ハガキでのやり取りも行っている。小学生にハガキを書いてもらい施設へ届けると喜ばれるのではないかな。高齢者の同行は転倒などのリスクもあり難しい。

【事務局】 学校、施設、団体と協力しながら行っていきたい。

(2) 令和4年度下半期事業予定及び令和5年度事業について【資料7】

【事務局】 資料7にあるように下半期も実施していく。令和5年度も8つの事業計画<参考資料参照>を大きく変えることはないが、例えば3.研修・講習会の取り組みでは、ニーズに合わせた講座の開催などを考えている。

【副委員長】 来年度、何処に力を入れていくのか。深めていくのか、幅を広げるのか様々な考えがあると思う。意見をいただきたい。

【理事】 障がい当事者と親の会が知的障がい、発達障がいの人たちの感じ方や感覚を体験してもらうワークショップを企画したいと思うが、教育機関が他者の受け入れに二の足を踏んでいる。5.教育機関への協力と連携の取り組みの中で、ボランティアセンターが間に入りつないでほしい。

【事務局】 小学校の総合的学習への協力の中で、視覚障がい者や身体障がい者の講演など学校からの依頼に答えてきた実績がある。新しいメニューの一つに加えることができるのではないかな。

【副委員長】 ぜひ力を入れていただきたい。6.活動援助の取り組みについても新しい貸し出し機材が入ると良い。

【事務局】 プロジェクターを買い替えたので活用して欲しい。今後もニーズに応えるため努力していきたい。

【委員】 SNSは何か利用しているのか。若い人は見るのではないかな。

【事務局】 西東京市社会福祉協議会はTwitterを利用しているが、ボランティアセンター単独でSNSは利用していない。

【委員】 若い人にとっては、あると良いかもしれない。

【副委員長】 ホームページもリアルタイムで更新していくのが望ましい。

【委員】 管理をする人がいないと大変だと思うが、「夏!体験ボランティア」の参加者を見みると、情報を得る手段として、チラシとホームページが半々である。SNSを利用すればさらに増えるのではないかな。

【事務局】 2.広報活動の取り組みで、広報の強化という点から考えていきたい。

4. その他

(1) 次回 運営委員会日程について

■日時:11月8日(火) 18:30~

■会場:

資料 1: 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和4年7月・8月)

資料 2: ボランティアコーディネート状況月次報告(令和4年7月)

資料 3: ボランティアコーディネート実績表(令和4年 7~8月)

資料 4: 西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定(令和4年9月・10月)

資料 5: 夏!体験ボランティア西東京2022 報告

資料 6: 令和4年度第2回運営委員会要点記録(未定稿)

資料 7: 令和4年度 年間スケジュール

参考: (1) 令和4年度 事業計画

(2) ぼらんていあ倶楽部第119号(令和4年8月15日発行)

(3) 「2022年度 区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員およびセンター長等
合同会議」開催要綱